

## 2007年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2007年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2007年度秋季総合分科会の際の9月22日（土）14時45分より、東北大学マルチメディア棟M206にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第12巻3号の会報127でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介は、今までと同様にご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載することになりました。（五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。）

### 特別賞

市野篤史（阪市大理講師）

業績の題目：保型形式の周期とL関数の特殊値

主に表現論の立場から、保型形式とL関数の研究を続けてきました。最近では、 $p$ 進簡約群の表現論に現れる様々な解析的不変量を、数論的に理解することに興味を持っています。

川北真之（京大数理研助教）

業績の題目：3次元因子収縮写像の明示的研究

建部賢弘賞を頂き、大変ありがたく思います。数学の仕事を一つ一つ積み上げていけるように、これからも研究を続けられればと望んでいます。

### 奨励賞

瀬片純市（福岡教育大教育講師）

業績の題目：高階非線形分散型微分方程式の解の漸近挙動の研究

非線形分散型方程式の解の長時間挙動を、主に振動積分を解析することにより調べています。手探りの部分が多いのですが、新しい方向性が見つければと思いつつ日々研究しています。お世話になった方々に心より感謝いたします。

緒方芳子（学振特別研究員PD（東大数理））

業績の題目：作用素環による統計力学の研究

私は作用素環を用いた非平衡系の研究を行っています。数学を用いることで、物理を鮮明に描き出すような貢献をしたいと思っています。この度はどうも有り難うございました。お世話になった方々に感謝いたします。

逆井卓也（東大数理COE研究員）

業績の題目：写像類群および曲面のホモロジー同境界群の研究

曲面の写像類やホモロジー同境界のなす群を通じて、3次元多様体の集合がもつ構造を調べています。研究では、トポロジーはもちろんのこと、表現論や非可換環論（の入門的部分）などもひょこっと顔を出し、とても面白いです。日頃お世話になっている先生方、先輩方、友人の皆様に深くお礼申し上げます。

甲斐千舟（学振特別研究員PD（九大数理））

業績の題目：等質 Siegel 領域および等質錐の幾何学

等質 Siegel 領域や等質錐は古典的な対象ですが、新たな視点から切り込むことで、思いがけず様々なことがわかってきました。これからは今までの研究を深めるとともに、研究の視野を広げていけるように努力したいと思っています。私を支え、励ましてくださった数多くの方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。